

3) 社会条件① : 登山利用の現状 →資料編 34～40p 参照

【現状の要点】

- ・年間を通じて、多くの登山者が訪れる。
- ・植生の楽しめる春と秋に登山者が増加する他、冬（12～2月）の登山者数も全体の2割に及ぶ。
- ・主な登山目的は「健康づくり」、「リフレッシュ」、「山野草の観賞」。
- ・登山者においては「整備」より「保全」のニーズが高い。
- ・小学校の総合学習において、角田山での自然学習のニーズがみられる。また自然学習の他、登山道の整備などに取り組む小学校もある。
- ・小学校の総合学習に絡め、案内ボランティアのニーズもみられる。



【登山利用の視点からみた方向性】

年間を通じて多くの登山者が訪れ、多くの人に愛される山であることから、今後も、これらの利用者の心身の健康増進に寄与すべく、良好な環境づくりを進めていく方向が望まれる。  
また、教育・啓発のための仕組みづくりも求められる。

・年別の利用者推移： 資料編 34p

角田山の過去5年の登山者数の推移を見ると、平成15年20万人→平成18年11万人→H20年は約15万人であり、減少傾向にあったものが増加に転じている。多宝山は年間4千人台の登山者であったものが大河ドラマ天地人によるPR効果から平成19年度は7千人台と増加し、今後2万人台の登山客が見込まれる。

・各コースの利用動向： 資料編 35p

【角田山】

稲島、福井、五りん石など平野側のコースは秋に登山者数のピークがある。

灯台、浦浜など海岸側のコースは春に登山者数のピークがある。なお、浦浜は8月にも顕著なピークが見られ、五か峠は、春・秋に顕著なピークがみられる。

その他コースは、桜尾根や宮前コースが中心になると思われるが、これらも春に顕著なピークがみられる。

【多宝山】

多宝山はコース利用の統計が無いいため、コースの様子を紹介する。

多宝山岩室温泉コースは、丸小山公園から天神山を経て登るコース。天神山には直江兼続の弟、大國実頼が治めていた中世の城跡「天神山城址」がある。

松岳山コースは、岩室神社から松岳山を経て登るコース。松岳山には天神山城の出城であった「松岳山城址」がある。

石瀬コースは、林道岩室金池線から石瀬～間瀬へ通じる登山道を登るコース。

※3つのコースは途中で1つになり、多宝山山頂へ続く。

・登山者の意識など： 資料編 36～38p

登山者に対するアンケートでは「健康（体力）づくり」「リフレッシュ」「山野草の観賞」の順に多く、角田山が、心身の増進に寄与していることが伺える。

ヒアリングの結果と同様、登山者のマナーは比較的良いとみられる。

「施設整備」より「山野草の保護」を重視している。

・ **学校教育との連携：** 資料編 39～40p

平成15年・16年に周辺の小中学校に対して行なったアンケートでは、「角田山で実施したい総合学習」は、「自然（植物）」「生態系」が最も多い。ついで「登山」「山遊び」「山の仕事」となっている。

角田山登山を行なう学校のうち、「登山教室」を実施している学校は約60%。現地案内ボランティアに対するニーズもみられる。また、巻地区の小学校では、チップ材による登山道整備など山を大切にす

4) 社会条件② : 生活との関連, 産業との連携 →資料編 31~33p 参照

【現状の要点】

- ・かつては95%が杉林の「林業の山」。
- ・S40年代からは角田山麓で柿の生産を始める。
- ・かつては里山として貴重な山であり, 季節風の風除けにもなった「金屏風」と呼ばれていた。
- ・山頂・登山道を含め, 山のほとんどが民有地である。
- ・角田山は, 麓の自治会をはじめ登山愛好者団体や保護や整備を目的とする団体の連携により整備, 保全の取り組みが行なわれている。
- ・多宝山は, 温泉組合と活動団体の連携により山の保全・活用に取り組んでいる。
- ・周辺には, 山の幸だけでなく海の幸もある。

【生活・産業との関連の視点からみた方向性】

地元の農林水産業, 観光, 地元の人々はそれぞれ地域振興を目的とした連携によるあらたな展開を必要としている。地元の産業や自治会, 観光協会などが, 角田山, 多宝山を核とし, 訪れる登山客との関わりを考え, 連携して地域振興に取り組んでいく方向で結びつきを強めていくことが望まれる。

・ 林業 : 資料編 31~33p

明治に始まった角田山麓の林業(峰岡林業)は, 大正期に「早期伐採の林業地」として全国的に有名。戦後の復興で住宅需要が増大し, 林業が盛んになるが, 戦中の人手不足で造林ができず, 木材不足となる。最盛期には角田山の約95%が杉林。S40年頃から安い外材が入り, 林業は衰退。しかし, 地元では現在も一部の林業家は杉林の管理を続けている。また, 多宝山の林業については, 成長が遅く緻密な石瀬地域の杉が質の高さに定評があり, 高価格で取引されている。しかし, 木材の利用は, 輸入木材が中心となっており, 林業をとりまく環境は非常に厳しい。

角田山, 多宝山の森林面積の多くを占める杉の人工林の荒廃を防ぎ, 景観の保全を図るためには, 杉林の土地所有者でもある林業家の関わりが重要であり, 手入れを行っていくための条件となる林業の振興にもまた, 他産業との連携などによる新たな展開が必要となっている。

・ 農業 : 資料編 32~33p

S40年前半の林業低迷時に, 松林を伐採して柿の栽培をはじめた。(二箇, 竹野町, 稲島) 国のパイロット事業。現在, 地元224名と地域外150名の組合員で組織。しかし, 高齢化が進み, 担い手不足となっており, 圃場の荒廃につながっていくことが懸念される。地元観光業との連携の事例も見られるようになってきたが, 新たな展開が必要となっている。

・ 生活 : 資料編 32~33p

角田山は, これまで「里山」として利用されており, 自分の家は自分の山の木で建てて来た。山に入って, わらび, たけのこ, きのこ, 雪割草, カタクリなど何でも採取した。わらび, カタクリ, 雪割草は商売になった。季節風を防ぎ, 山の恵を与えてくれた弥彦山脈は「金屏風」と呼ばれていた。

現在, 地域の人々は里山との結びつきが希薄となってきた。角田山周辺の自治会は観光協会

を兼ねており、地域ぐるみの観光を行なう基盤がある。現在稲島地区の観光協会が山開きとちょうちん登山が行なわれており、福井地区の観光協会では、地域の振興策として、ホテルの増殖やホテル祭りなどが積極的に行なわれてきた。これら自治会である観光協会の活動が地域振興に結びつくように、また、年間15万人とも言われる登山客が地域振興に結びついていく方向を摸索していく必要がある。

#### ・土地の所有状況：

角田山・多宝山は、古くから生活の場・生産の場として活用されており、現在でも山のほとんどの地域が民有地である。角田山、多宝山における活動の全てについて、土地所有者の理解と協力を得ていく必要がある。

#### ・観光への活用：

山麓に開けた岩室温泉は、知名度の高い新潟市内唯一の温泉観光地であることから、山を訪れる登山者の利用に結びつけることが望まれる。海側には海水浴場を中心とする民宿もあり、海水浴のオフシーズンに登山客を受け入れるなど角田山との連携による活性化も考えられる。

山を取り巻く位置にあるレストランや食堂、直売所、陶芸などの体験施設、日帰り温泉施設などは、営業内容の情報を発信することで「登山と食」、「登山と温泉」など様々な要素を組み合わせた楽しみも創出できる。

林業体験、登山道整備体験、生き物調査体験など、実益や教育を合わせた体験活動も考えられる。

周辺には、単独の観光協会を有する集落が多く、地域住民と協働による観光の取組みが可能となる体制が存在する。

平成15年に角田山登山者に対して実施したアンケートによると、周辺施設の情報が不足していると思われる。

#### ・歴史的資源：

角田山・多宝山の周辺は古くから居住地域となっており、長者ヶ原遺跡や岩原遺跡、山谷古墳といった縄文時代からの遺跡や、前方後円墳も見られ、山麓からは多数の石器や土器も発掘されるなど、歴史的資源の

宝庫と言える。多宝山の登山道途中にある天神山には中世の城跡があり、直江兼続の弟、大国実頼が城主を務めていたことで注目を集めている。

角田山・多宝山の山麓の道は、かつては出雲崎から新潟湊へ続く北国街道として重要な役割を果たしてきて、稲島宿は往時の面影を深く残している。松尾芭蕉や良寛もこの道を歩いたとされ、句の刻まれた石碑が多く残されている。

この北国街道には青龍寺、種月寺、一山寺、景清寺や石瀬神社、岩室神社、船山神社などの神社仏閣も多数点在し、種月寺の本堂は国の重要文化財の指定を受けるなど、貴重な遺産となっている。福井地区には、茅葺屋根の「旧庄屋佐藤家」が地区の有志により保存され、宿泊や食事の自炊活動ができるなど、都会と田舎の交流拠点となっている。また、「米百俵」で知られる三根山藩は、水の条件がよい角田山・多宝山の麓に位置したため、作物も豊富で相場が開かれたり、酒、醤油など醸造業が多く存在していたという。現在もその名残として、酒蔵が多く残っている。

#### ・周辺の漁業：

角田山・多宝山は、日本海に接して立地しており、周辺に間瀬漁港・巻漁港などの漁港がみられ、魚介類の水揚げがある。

角田山、多宝山の海岸部には県営の間瀬漁港と市管理の巻漁港があり、山すその特別な環境の漁場で、新鮮で質の高い魚を水揚げする吾智網漁業を中心に操業が行われている。また、巻漁港では魚価の低迷に対応し、交流人口の拡大につなげていくため、平成20年度に直売所が整備された。しかし、漁業経営環境は厳しく、後継者難であり、観光との連携などによる新たな展開が必要となっている。